

# ごあいさつ

皆様には、平素より東和銀行をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

また、東日本大震災により被災された皆様に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本年も、当行に対するご理解を一層深めていただくために、ディスクロージャー誌「東和銀行レポート平成23年3月期」を作成いたしました。本誌では、平成22年度の業績を中心として、できるだけ詳しく紹介させていただいておりますので、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

昨年度のわが国経済は、夏までは政府の経済対策による個人消費の押し上げや輸送用機械を中心とした製造業が景気回復を牽引し、緩やかな回復基調にありましたが、秋以降になると政策効果の一巡や海外経済の減速により景気は足踏み状態となりました。その後、今年に入り輸出や生産が持ち直すなど踊り場を脱する動きが顕在化していたものの、3月11日に発生した東日本大震災により景気動向は一変し、生産面を中心に下押しする圧力が強まりました。

このような経済状況のもと当行は、靴底を減らす活動を徹底し、お客様のニーズの把握や情報提供、円滑な資金供給に取り組んでまいりました。その結果、当行の第106期決算は、預貸金とも順調に増加し、当期純利益は60億円を計上することができました。また、経営強化計画に掲げた平成24年3月期の中小企業貸出の最終増加目標を既に達成することができたとともに、本業の収益力を示すコア業務純益は95億円となり、経営強化計画の最終目標101億円に届く水準となるなど、経営強化計画実現の道筋が明確となりました。

足元の景気は、東日本大震災の影響により深刻な打撃を受けております。私どものお客様のなかにも、直接、間接の被害に遭った方も少なくありません。当行では、震災後直ちにお客様への影響調査を実施し、個別に実態・状況を把握するとともに、今回の震災で資金繰りに影響が生じたお客様のご相談にも迅速に対応してまいりました。3月には緊急対応として資金供給を行い、4月以降も全役職員が一丸となってお客様の被害状況の実態や資金繰り把握について徹底して取り組んでおります。

景気の先行きについては不透明感が強く、当面は厳しい状況が続くものと思われませんが、こうした状況にあるなか当行は、地域の中小企業等の皆様への支援に全力で取り組んでまいります。

その1つ目は、中小企業等の皆様への円滑な資金供給です。今回の震災の影響を的確に把握し、必要な資金をタイムリーに提供していくとともに、靴底を減らす活動でお客様回りを徹底し、新規創業や事

業拡大、成長分野事業等への資金供給も地域とお客様の発展のため積極的に取り組んでまいります。

2つ目は、経営改善支援および金融円滑化の取組み強化です。経営相談・指導等のコンサルティング機能の実効性を高めるため、審査管理部下にある企業支援室および金融円滑化推進室を拡充し、お客様へのきめ細かな対応で、中小企業等の経営改善支援や貸付条件変更などの態勢強化に努めてまいります。また、公認会計士、弁護士、税理士などの外部専門家と連携した経営相談も積極的に取り組んでまいります。

3つ目は、情報提供やビジネスマッチングの充実です。中小企業等のアジア地域等への進出支援を図るため、4月に国際部を新設し、情報提供・相談面での支援体制の整備・強化を図りました。また、「ビジネス交流会」を定期的に開催し、お取引先のビジネスマッチングの支援にも努めてまいります。

東日本大震災は未曾有の大惨事でその被害は甚大であります。当行は、この大震災の影響を吸収し、地域とお客様を最大限支援していく決意であります。これからも当行は「雨でも傘をさし続ける銀行」として、靴底を減らす活動を徹底し、お客様の抱える課題の解決を一緒に図り、お客様の役に立つ銀行として金融仲介機能を発揮し、また全行的なコンプライアンス態勢の充実・強化を重要課題として捉え、更なる収益力の強化と経営の効率化に積極的に取り組んでまいりますので、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成23年7月

株式会社東和銀行  
代表取締役頭取

吉永國光